八正道シリーズ(6)

# 正精進
しょうしょうじん

仏教入門講座Ⅰ

もくじ

# 正精進


一、精進の意味……1
二、仏の心……3
三、顚倒……5
四、自愛と我愛……7
五、我執……11
六、執との闘い……13
七、聞の宗教……17
八、聴聞にきわまる……19
九、更に前進……22
十、生彩ある生活……24


（表紙画・宇野正一）

# 正精進

## 一、精進の意味

精進という言葉は割合に日本人に知られていまして、例えば「今日は親の命日だから精進せねばならぬ」とか、精進料理というのもあって、魚や肉を食べないということだけに理解されていますが、もとは仏教からきた言葉で、本来は一生懸命に力をつくすこと、努力をあらわした言葉であります。いつの世にも、どんな所でも、まともなことを成功させようとするならば、努力の必要であることは言うまでもありません。しかし事、仏法ということになると、この

精進ということがいのちともいうべき意味を持っているのであります。このことを少しくわしくお話ししましょう。何故精進ということがさほどに大切なことなのでしょうか。

人間にはさまざまな苦しみがありますが、不思議なことに例外なくどんな人間も苦しんでいまして、私たちから見てうらやましいような人でも、その人はその人なりにどこかで苦しんでいるということであります。何故でしょうか。大体、苦しみというものは、外から見ただけでは分かりません。みなそれぞれのものですから。それによく考えてみると、苦しみというものは、無ければ無いで苦しみ、有れば有るで苦しむことになっているからです。無いことで苦しむのは貪欲で、有ることで苦しむのは執着であります。お経（無量寿経）を読んでみますと、これは人間の心に問題がある、と説かれています。それは迷いということ、その迷いによって人間は苦しんでいるということであります。



## 二、仏の心

この人間を何とかして救いたい、これが仏の心、阿弥陀仏の本願といわれるものであります。しかしその仏さまの相手は凡夫、自分が自分でどうにもならぬ代物、心がけが間に合わず、悪い癖が直らないという、まことに困ったものであります。だから仏さまからは何の注文もつけられません。かえって自分に注文をつけられました。それはどのような困難があっても必ずすべての人間を救おう、もしそれが出来なければ私は仏にならないという誓いを立てられたことであります。誓いというのは自分に注文をつけることでしょう。

そこでどうすれば誰でもが助かるか、このためには人間を底の底まで見きわめなければなりません。「正信偈」に「五劫思惟之摂受」（五劫に之を思惟して摂受したまう）といわれる之というのは、どうすれば如何なる人間でも助ける